所報

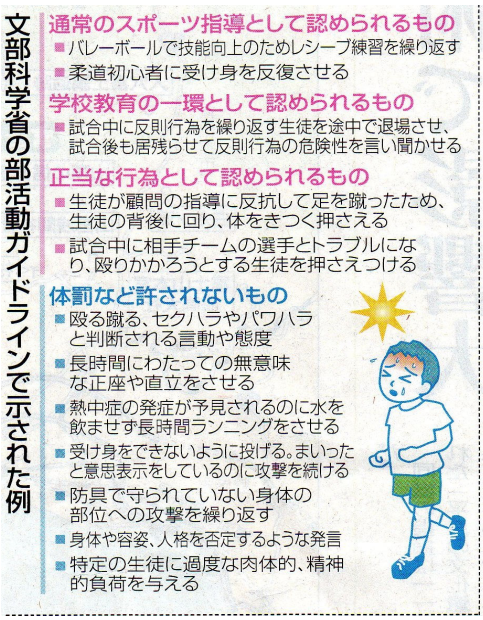
美　濃　市　教　育　研　究　所
第３１４号平成２５年６月２１日発行
電　話（０５７５）３５－２３３４
ＦＡＸ（０５７５）３５－３１３４
e-mail：kyouikuken@city.mino.lg.jp

体罰か指導か具体例を文科省がガイドライン

大阪市立桜宮高校で体罰を受けたバスケットボール部員が自殺した問題を受け、文部科学省の有識者会議が５月下旬、部活動の指導についてのガイドラインをまとめた。体罰は許されない指導だとして、殴る蹴るだけでなく「炎天下の長時間ランニング」なども該当すると具体例を示した。何が体罰でどこまでが厳しい指導なのか。「はっきり区別するため」のガイドラインは何が基準か。

ガイドラインでは、顧問と生徒との関係は「信頼関係があれば指導としての体罰は許されるとの認識は誤りで、決して許されない」と強調した。また、「勝利を目指したり記録に挑戦したりすることは自然なこと」とする一方で、「勝つことのみを重視し、過重な練習を強いることが無いようにする。」と勝利至上主義を否定。さらに部活動の指導を顧問の教諭に任せっきりにせず、校長のリーダーシップで運営方針を作成し、情報共有を図ることを求めた。

今回のポイントは体罰についての認識を共有するため、厳しい指導と体罰などの許されない指導の区別を明示したことだ。線引きの基準は合理的な練習ではなく、罰としての要素が強いことなどとした。（文部科学省が示した例は右表）



ある男子バレー部の試み

滋賀県長浜市の西中学校男子バレー部は今年１月、「アスリート」と「チャレンジ」の２コースを設けた。長時間の練習や体罰などの問題が指摘される運動部の活動だが、楽しめる部活動も目指す試みだ。

放課後の体育館の男子コート。約４０人の部員が全員でアタックやレシーブの練習に汗を流す。

「平日は、アスリートコースもチャレンジコースも一緒に練習します」と顧問の堤正則教諭。入部まもない１年生はともかく、２つのコースの部員は入り交じっていて、一見区別がつかない。

アスリートは競技力の向上が目標で、朝練習があるほか土日も練習や遠征がある。公式試合にも出場する。チャレンジ組は運動に親しむ習慣を身につける。放課後と土曜か日曜どちらか半日だけ練習する。対戦も練習試合程度だ。容易ではない。だが、「やらされる部活動ではだめだ」と思った。子どもは楽しいと感じたとき最も力を発揮する。一人一人を大事にする部活動なら、体罰やいじめもおきない。楽しく取り組めば技術も向上する。このような思いからこの試みは生まれた。

（中日新聞　平成２５年５月２０日（月）版より抜粋）

今、全国的に運動競技の指導のあり方が問われています。私たち教師も、部活動だけで無く教育専門職の指導者として心に響く指導のあり方を真剣に考えていきたいものです。

教室でできる特別支援教育　曽山和彦　名城大学准教授

１，学級づくり・授業づくりの基本的な考え方

全ての子どもにとって「居場所」となる学級づくり「わかる」授業づくりのために必要なことがある。

（１）　気になる子の理解

ＬＤ（学習障害）、ＡＤ／ＨＤ（注意欠陥／多動性障害）、ＰＤＤ（広汎性発達障害）等の発達障害のある子、あるいはその疑いのある子が在籍する場合、該当障がいについて、理解と対応の基本を押さえることは不可欠である。例えば、ＰＤＤについて少し学ぶだけで、「フォトグラフィックメモリ→絵やカード等の視覚情報を活用」「見通しをもちにくい→予定の伝達」等理解と対応のワンセットが見えてくる。視覚情報を用いることはＰＤＤの子にはもちろん、周りの子にとってもよりよい支援となる。これがいわゆる「ユニバーサル（普遍的、万人向け）」な支援となり、学級づくり・授業づくりにおいて機能する。

（２）　学級集団の理解

学級は、教師、子どもたちの様々な価値観が出会い、時には重なり、時にはぶつかる場である。「友だちの話を聴く」というルールが守られることで安心して発言ができ、お互いの意見を「なるほど」「いいね」と認め合うことで信頼が高まり、個及び集団が成長していく。

マズロー（１９８７年）は人間の基本的欲求を、基底の「生理的」欲求から順次「安全」「所属・愛」「承認」「自己実現」欲求までの階層に整理した。低次欲求が部分的にでも満たされたのちに高次欲求が出現するというマズローの仮説をイメージすれば、よりよい学級・授業を作るために教師がすべきことは見えてくる。それはさまざまな腕を駆使して、子どもの「安全」「承認」等の欲求に応えるということである。担当する学級に、安心感や所属感、承認感が満たされているのかどうか・・・。担任及び複数の教師の目で集団の状態把握に努めたい。また、Ｑ－Ｕ等の心理尺度も合わせて活用することで、より正確な集団把握ができるだろう。

（３）　すべての子どものソーシャルスキル＆自尊感情育成

今、気になる子の問題が各地で話題になるのは、昔に比べ、気になる子の状態が悪化しているからというよりは、「周りの子」の力が以前に比べ弱まっているからではないかと考えられる。具体的には、人付き合いのコツ・技術である「ソーシャルスキル」、自己評価の感情である「自尊感情」の二つである。これらはいずれも人とのかかわりのなかで育まれるものであることから、かかわり体験が圧倒的に不足する現代の子どもの中に、これらの力が育ちにくいのは想像に難くない。学校現場を訪問すると、気になる子にちょっかいを出している周りの子がいかに多いことか。

「人が人になるには人が必要」ということばがある。教師の工夫次第で、日々の学校・学級生活の中に様々なかかわり体験の場を用意することが可能である。子どものソーシャルスキルや自尊感情を育むために、教師の腕の見せ所の一つとして、対人関係ゲーム、エンカウンター等を活用した実践が多くの著書で紹介されている。子どもの実態、学級集団の状況に合わせて活用するとよいだろう。

２，お薦め実践。授業づくりの三原則（よく言われていることではありますが）

①　学習規律

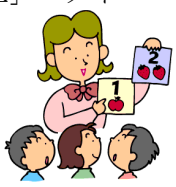
「机上には何も出さず、その時必要なものを必要な時に素早く用意する」「必ず発表者の方を見て聞く」「友だちの発表に対して反応する」「クラスで決めたハンドサインをしようする」等

②　リズムとテンポ

集中と参加を図るために一定のリズム、テンポが必要。「授業の流れのパターン化」「音読の効果的な配置と音読パターンの多様化」「短冊使用による板書のテンポダウン防止」「タイマーを活用し、学習活動切り替えにメリハリ」等

③１指示１動作

教師の明確な言葉、分かりやすい指示等は「分かる授業づくり」に欠かせない。



平成２４年度岐阜県小中学校　教育実践研究入賞論文集　第２８集より

各校へ配付された、論文集のあとがきに下記のように書かれていました。

教師は多忙であるといわれる中、各小中学校の校長先生方には教育の実践研究の大切さを先生方に訴えていただきました。その結果、昨年度より２０名増の１，２８４名（県下全教職員の１０％）の先生方が教育実践研究論文に応募されました。各校の校長先生や応募された先生方に対し深く敬意を表します。とりわけ、小学校教員の５２％が参加された市がありました。市内の各小学校と市教育委員会の教育実践に対する取り組みに心から敬意を表するものであります。

今年度の応募の特徴は、２０代の先生方の応募の急増です。２０代、３０代の応募数は下表のように８０％に近づこうとしています。このことは、各小中学校において２０代、３０代の先生方がミドルリーダー、管理職の先生方の支えのもと、思いきって教育実践に打ち込むことができることの現れであろうと捉えることができます。（以下略）

	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
２０代の先生	３７．２％	３９．５％	４０．０％	４０．８％	４７．８％
３０代の先生	３３．２％	３１．６％	３１．６％	３２．３％	３１．３％

美濃市の２０代３０代の先生方も教育実践に頑張ってみえます。

４月の第１回教育実践講座で研究主題や実践構想を立てられ、7月・１１月の講座を参考にされ、１月の提出期限に向けて、計画的に取り組んでみえます。先輩の皆さんもご支援お願いします。

ＮＯ	氏　　名	学校名	研　　究　　主　　題	領域
１	作倉　誠	美濃小	児童の学ぶ意欲を高め、基礎学力を定着させるための少人数指導のあり方	算数
２	平林明憲	美濃小	自ら読み進め、仲間とともに読みを深める児童の育成	国語
３	林　由紀	牧谷小	音楽の美しさや楽しさを求め続け、進んで音楽表現できる子をめざして	音楽
４	堺　さおり	大矢田小	算数的活動を大切にし、書きながら自分の考えを明らかにする指導の工夫	算数
５	熊崎達也	中有知小	要支援児童の教育的ニーズに応える特別支援教育のあり方	特別支援
６	堀　春美	中有知小	学習力・生活力を身につけ、個が生きる特別支援教育のあり方	特別支援
７	古田昌寛	美濃中	自ら意欲的に学習する生徒の育成 ～数学科における課題追究の視点の明確化～	数学
８	中根信也	美濃中	自ら意欲的に学習する生徒の育成 ～技術科における課題追究の視点の明確化～	技術科
９	古田大道	美濃中	意欲的に環境美化活動に取り組む生徒の育成～仲間と関わることで、自分自身の役割を明確にした環境美化活動をめざして～	特別活動
１０	水木佳恵	美濃中	生き生きと自分の考えを話すことができる活発な授業をめざして～自分の意見や考えがもてるノート指導を通して～	国語
１１	中原優香	美濃中	集団生活の中で前向きに生活できる生徒をめざして ～相手の気持ちを想像する力・規則を守る力～	特別支援
１２	舩坂久美子	昭和中	子どもが主体的に活動できる状況づくり	特別支援

＊　今後さらに、追加の応募も受け付けております。是非、３年に一度は自分の実践をまとめてみましょう。

研修講座　「学級経営力Ａ」　６月５日（水）藍見小・講師：羽田野富喜子教諭

市内８名の先生方が、羽田野先生の１年生の教室掲示の説明を受けた後、図書室でリフレーミングのエクササイズをやったり、学級経営の基礎的・基本的なことについて事例を挙げて研修されました。（参加者から）

・１年生の教室掲示を見せていただき大変参考になりました。「４月に教室掲示は完成し、あとは、中にいれていくだけ」という言葉が大変印象に残りました。１年の流れを見通してこそ、こういうきめ細やかな掲示ができるんだなと勉強になりました。

・話し方の人形を見たとき直感で「これは使える」と思い、その手法を是非とも自分のクラスに持ち帰ることにしました。また、ＳＳＴのような「傾聴」のトレーニングは自分の学級でも試したいと思いました。

研修講座「発達障がいの理解と指導Ａ」６月１３日（木）美濃市中央公民館

講師：西濃圏域発達支援センター「ひまわり」　中野　たみ子　専門支援員

今年も、中野先生に来ていただき、発達障がいの理解と具体的支援についてお話をいただきました。３０名程の先生方は、自分の学級の子ども達の姿を浮かべながら熱心に研修されました。（参加者から）

・個人内差に目を向けて指導するということや、子ども自身が自分の気持ちに折り合いを付ける方法を学んでいるかどうかを視点にして生徒と向き合うなど、すぐに心がけたり、生かしたりできそうなことを学ばせていただきました。

・今回の研修で、支援の引き継ぎの大切さを改めて学びました。学級の引き継ぎの際、子ども達がより生きやすく豊かな学校生活が送れるようにするための具体的な支援の仕方や効果的な支援など知っておくことが子どものためになると思いました。

夏期研修講座の追加と関市合同研修講座の募集　まだ*今なら間に合います！！*

番号	講座名	開催日	番号	講座名	開催日
美１	小器楽の基礎	７月29日（月）	関１	私の学級経営（小）	７月24日（水）
美２	小外国語活動	７月30日（火）	関２	私の学級経営（中）	８月７日（水）
美３	学級経営力Ｂ	８月22日（木）	関３	放射線の教育	７月26日（金）
美４	美濃市の歴史	８月23日（金）	関４	不登校といじめ	８月９日（金）
美５	絵画指導の基礎	８月29日（木）	関５	発達障がい	７月24日（水）
美６	発達障がいの理解と支援	８月30日（金）	関６	授業力アップ・小理科	７月25日（木）

雑感　～　片づけができない　～

上述の中野たみ子先生のお話の中で「最近は、片づけができない子どもが多くなりました。そんな子が成長すると、家の中が乱雑でゴミ出しがしっかりできない大人になります」というようなお話があった。私は、つい我が家の孫達の様子を思い出していた。「そうだ、何度叱ってもかたづけない。仕方の無い子どもだ」と思っていた。しかし、中野先生は、そんな子どもでもしっかり訓練すればよくなりますといわれた。たとえば、引き出に絵や文字で中に入れるものをしっかり決めさせ自分のものを入れる習慣をつけさせるとか、机の中が乱雑な子はきちんとした状態の写真を撮り拡大して底に貼っておくなどすれば、同じものは同じところに置く習慣が身につき、片づけができる子になると。なるほど、早速家に帰って妻に話した。孫の引き出しにはしっかり絵や文字が貼られていた。私の引き出しにもしっかり絵や文字が貼ってあった。